

令和6年度 福祉文教委員会 視察報告書

1. 視察日程

令和7年1月22日（火）・23日（水）

2. 視察先及び視察内容

愛知県大府市 「大府市認知症不安ゼロ作戦について」

社会福祉法人 天竜厚生会 「社会福祉について」

3. 視察参加者

委員長 阿久根真一

副委員長 川上 秀範

委員 小林 恵美子 池谷 晴一

小林 昌美 高村 芳章

芹澤 勝徳

当 局 山崎 和夫（長寿福祉課長）

事務局 渡邊 一二司（議事課主任）

4. 視察先対応者

【大府市役所】

健康未来部 部長 中村 浩 様

健康増進課 課長 北川 美香 様

健康増進課 主査 眞野由香子 様

健康増進課 主任 東村 亜美 様 ほか

【天竜厚生会】

地域福祉事業部 部長 植松 史浩 様

福祉サービス課 主任ケアワーカー 木田 敦子 様

介護老人福祉施設 百々山 施設長 稲葉 大介 様 ほか

5. 視察詳細

『大府市役所 大府市認知症不安ゼロ作戦について』

日 時：令和7年1月22日（火） 午後1時30分～午後3時

場 所：大府市役所 本庁舎

＜目 的＞

高齢化社会に合わせて問題となっている認知症についての対策を実施している先進地でその内容を確認し、今後の委員会活動に資するものとする。

＜概 要＞

愛知県西部、知多半島の付け根に位置し、名古屋市の東南に隣接。戦後の愛知用水の開削後は、名古屋市に野菜を供給する都市近郊農業地域を形成。その後、名古屋市と西三河地域に広がる自動車産業地帯の中間に位置することから、自動車産業を中心に多様な産業が集積し、工業中心のまちとして発展。名古屋駅から鉄道で15分の交通利便性から、住宅都市の側面も持つ。

＜研修内容＞

国立長寿医療研究センターとの連携により実施されている、脳と身体機能を同時に活性化させる「コグニサイズ」やプラチナ長寿健診及び身体活動、知的活動、社会活動を記録するコグニノート「認知症不安ゼロ作戦」、VRを用いた安全運転技能検査、健康長寿塾などについて研修した。

※コグニサイズ・・・cognition(認知)+exercise(運動)を表した造語

※コグニノート・・・センターが開発した身体、知的、社会参加について高齢者本人が日々の活動を記録する手帳（定期的にセンターへデータ送信）



《 考 察 》

・ 介護予防事業

本市の高齢化率26%に対し大府市は21.63%と全国平均と比較してもかなり低い水準である。自動車関連等の産業を中心と現役世代が多いことや名古屋市のリットタウンという地理的要因などもあるが、その中で大府市は「予防」を率先して事業化し対象となる市民を巻き込んで進めている。

特に先進的事業として実践されている「コグニサイズ」は脳と身体機能を同時に活性させる運動としてMCI（軽度認知機能障害）の高齢者の認知機能向上に有効であることが実証されており、本市においても3776体操に加えて実施することで、更なる認知症予防が図られるものとする。

・ 認知症不安ゼロ作戦

この事業は脳と身体の健康チェック、プラチナ長寿健診、コグニノートと3本を柱とした複合事業となっている。認知機能は高齢になればなるほど加速度的に低下していくため、いかに早く認知機能低下を発見しその進行を遅らせることができるかがポイントとなっている。特に、特定健診などの受診率を上げることは重要な施策であり、プラチナ長寿健診（認知症予防健診）の受診対象を75歳以上の特定健診受診者及び73歳以下の希望者に拡大したことは、結果的に健診受診率の向上にも寄与しており、良い取り組みであると感じた。

これ以外にも安全運転技能検査やハイリスクフォロー、食べる機能健診など多種多様な活動も展開しつつ包括的な予防事業を推進している。

・ まとめ

大府市の介護予防事業は、国立長寿医療研究センターが主導して実施されており介護、認知症予防対策として総合的に実施することで、大きな成果を挙げていることが実感できた。

本市に於いても様々な予防事業を取り入れ進めているが、今回の先進事例などを参考に新たな介護・認知予防に取り組んでいくことにより健康寿命の延伸に寄与できるものとなり、ひいては介護保険料増加の抑制につながるものとする。

一方で今後このような事業に取り組むにあたり課題として見えたのは、対象者の参加率が低調であること、特に男性の割合が極端に低いことである。自分の健康のためだけではなく「データを集めるために協力してもらいたい」という社会貢献的な意識を持たせることも男性の参加率を上げていく手法の一つであるとする。

『天竜厚生会 社会福祉について』

日 時：令和7年1月23日（水） 午前9時30分～午後2時50分

場 所：社会福祉法人 天竜厚生会

≪目 的≫

社会福祉全般を担っている法人から、社会福祉についての内容を確認し、今後の委員会活動に資するものとする。

≪概 要≫

障がい者支援・高齢者支援・保育園や認定こども園の運営を始めとした子育て支援・地域での困りごとを解決するための訪問介護や訪問入浴等の支援・福祉を伝えるための『福祉教育事業』など、福祉と医療のサービスを静岡県内で約260事業を展開している。

利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じた自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的としている。

≪研修内容≫

座 学) 天竜厚生会の概要説明、福祉についての講義
体 験) 車いす体験、視覚障害者体験（含む介助体験）
施 設) 就労支援のための「就労継続支援B型事業所 天竜ワークキャンパス」、介護老人施設である「百々山」の見学



《考 察》

天竜厚生会は結核の退院者保護、居場所の任意団体として発足し、その後徐々に拡大され、障がい者・高齢者を中心に認定こども園や放課後児童施設、生活困窮者事業などにも取り組まれ、すべての「困っている人」への手助けを行っている総合福祉施設となっている。本施設は浜松市の北部に位置していることから施設近隣においては高齢化率が70%を超えている地区もあり、特に高齢者介護の需要が高まっていることに対し積極的に応えてきている。

研修の前段では「福祉とは何か」についての講義もあり、そのなかで「ふつうのくらしのあわせ」それが「ふ・く・し」であり、その幸せを全ての人に提供することが「福祉事業」であることを改めて認識した。さらに、福祉は特別な人に対するものではないこと、お互いの意識的バリアの解消が大切であることを強く感じた。また、福祉事業に伴う組織については縦割りから横割りへ移行した背景の説明もあり、対象となる個人の抱えている問題が複雑に絡み合っている現状では当然の流れであり、本市も行っている重層的な支援と同様であると感じた。

障がい者や高齢者の就労支援は、本人や家族に生き甲斐や希望を持たせることができる重要な機会であり、しかしながら様々な物価が高騰しているなか、現状の安価な賃金で自活していくには非常に厳しい環境であり、消費者物価指数なども鑑みながら報酬の見直しが必要であると考えた。

介護老人施設では11人の外国籍の人が働いているとのことであり、求人難の日本では人員確保が今後さらに厳しくなっていくことから外国籍の人にとっても就労し易い制度・環境整備・教育の必要性を感じた。

また、介護職の給与・報酬の増額だけではなく、業務の効率化・自動化を取り入れた働き方改革についても早急に取り組んでいかなければならない課題であると感じた。

